



“ジュネーブから今を見る” 今日のヘッドライン

グローバル

2017年7月31日

ドル指数から眺めるグローバル市場の動向

ドル指数は主要通貨に対するドルの動きを示します。日本ではドルの動きは円から見る人が多いですが、ここではドル指数の動きを確認し、その背景を探ります。

ドル指数：年初からのドル指数の下落傾向が継続

世界の主要国通貨に対しドルが下落傾向です。米インターコンチネンタル取引所(ICE)算出の「ドル・インデックス(ドル指数)」は年初から下落が続いています(図表1参照)。ドル指数は主要通貨(ユーロ、円、英ポンド、カナダドル、スイスフラン、スウェーデンクローナ)に対する米ドルの総合的な価値を指数化したものです。

どこに注目すべきか：

ドル指数、財政政策、原油動向、資本フロー

ドル指数は主要通貨に対するドルの動きを示します。日本ではドルの動きは円から見る人が多いですが、ここではドル指数の動きを確認し、その背景を探ります。

まず、『円ドル』の2017年年初からの動きを見ると、概ね1ドル110円から115円の範囲の動きに終始、方向感が定まりにくい展開です(図表2参照)。一方ドル指数は17年年初からほぼ下落傾向です(図表1①参照)。この動きの背景は、ドル指数に占める構成割合が高いユーロの対ドルでの上昇の寄与が高いと見られます(図表1 注)参照)。

次に、ドル指数の水準に注目すると、現在は昨年(2016年)の米大統領選挙などを背景に湧き上がった財政政策拡大期待が、急速に後退した水準にも見られます(図表1②参照)。さらに、足元の米国の政治状況を見ると、大統領首席補佐官の報道官が更迭などで入れ替わるという内紛が続いています。政策においても、8月の休会目前にもかかわらず、オバマケアの代替・廃止法案の先行きは不透明です。米国政治の点では、ドル指数は財政拡大期待が単にしばんだだけというよりも、マイナス面が目立つ展開です。

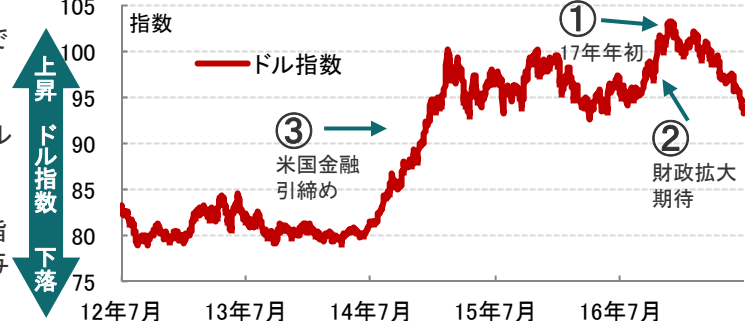
最後に、ドル指数が大幅に上昇した2014年半ばから2015年の動きを振り返ります。グローバルに見られた主な動きとしては、原油価格の下落と、新興国市場からの資本逃避傾向でした(図表1③参照)。ドル建てで取引されることが多い原油はドル高により原油の割高感を生みだすことがある点と、原

油の需給バランスが崩れたこと(供給過剰)が原油市場に見られました。③の時期、米国経済は相対的に堅調で、主要先進国で唯一利上げが想定される国であったため、資本の流れが強い米国に向かい、反対に新興国などから資本流出が見られました。

もちろん、ドル指数の動きで全てを語れるわけではありませんが、先週の米4-6月期GDP(国内総生産)のような市場予想程度の回復では、センチメントの改善には力不足と思われます。米国の景気回復は底堅く、急落は想定しがたいものの、ドル指数の急回復は当面望みにくいかもかもしれません。

図表1:ドル指数の推移

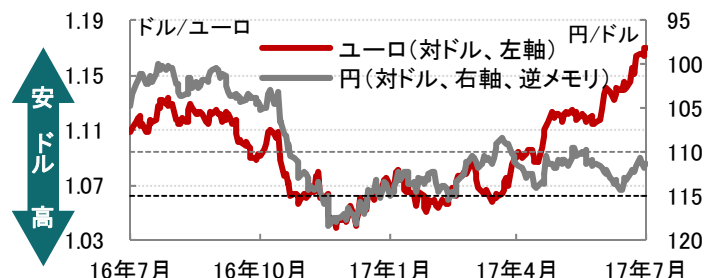
(日次、時点:2012年7月30日~2017年7月28日)



注)ドル指数構成通貨別割合:ユーロ57.6%、円13.6%、英ポンド11.9%、カナダドル9.1%、スウェーデンクローナ4.2%、スイスフラン3.6%

図表2:ユーロ、円(共に対ドル)の推移

(日次、時点:2016年7月28日~2017年7月28日)



出所:ブルームバーグのデータを使用してピクテ投信投資顧問作成



ピクテ投信投資顧問株式会社

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。